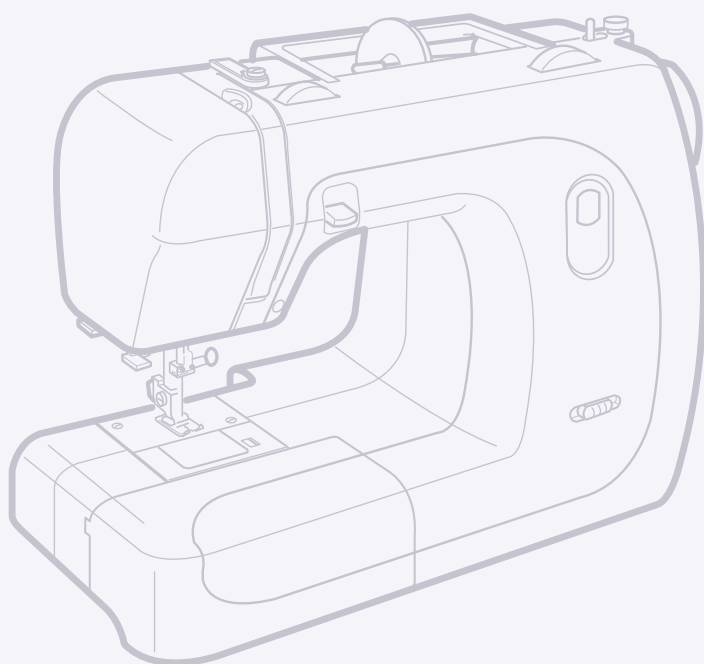


ご使用のしおり

《取扱説明書》



JANOME




安全上のご注意




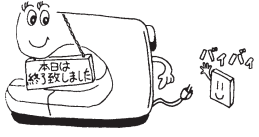
- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 For use in japan only.



















危害・損害の程度を表わす表示

 警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
--	---

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 警告 感電・火災の恐れがあります。		
 必ず実行	一般家庭用、交流電源 100V でご使用ください。	 必ずプラグを抜く 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき 

 注意 感電・火災・けがの原因となります。	
 分解禁止 お客様自身での分解はしないでください。 	 必ず実行 針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。 針が押さえにあたり、けがの原因になります。
 接触禁止 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。 	 必ず実行 以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
 禁止 ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。	 必ず実行 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。
 禁止 曲がったり、先のつぶれた針は、ご使用にしないでください。 	 必ずプラグを抜く 以下のことをするときには、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。 ・針、針板を交換するとき ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。） ・ミシンのお手入れを行うとき
 禁止 フットコントローラーの上に物をのせないでください。	 必ずプラグを抜く ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
 禁止 プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください。	
 注意 お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。 	
 必ず実行 ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。	

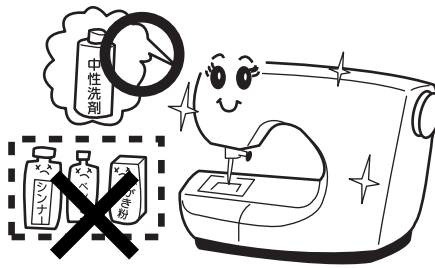
目 次

お取り扱いについてのお願い	2	●いろいろな実用ぬい.....	17～31
●各部のなまえ	3	◎直線ぬい	17～18
●補助テーブルの使い方	4	★ぬい始め	17
●標準付属品と収納場所	4	★厚手の布端のぬい始め	17
●操作方法	5～8	★ぬい終わり	17
◎電源のつなぎ方	5	★ぬい方向の変更	18
★スタート・ストップボタンを 使用する場合	5	★針板ガイドラインの利用	18
★フットコントローラーを 使用する場合	5	◎三重ぬい	18
◎スタート・ストップボタン	5	◎伸縮ぬい	19
◎速さの調節	6	◎ジグザグぬいのたち目かがり	19
★ぬいスピードコントロールつまみ	6	◎トリコットぬいのたち目かがり	20
★フットコントローラー	6	◎その他のたち目かがり	20
◎返しぬいレバー	6	◎オートボタンホール	21～23
◎押さえ上げ	6	◎芯入りオートボタンホール	24
◎ドロップつまみ	7	◎ファスナー付け	25～26
◎もよう選びダイヤル	7	★ファスナー押さえの取り付け方	25
◎ぬい目のあらか調節ダイヤル	7	★準備	25
◎上糸の強さ調節ダイヤル	8	★ぬい方	26
★自動糸調子	8	◎まつりぬい	27
★マニュアル糸調子	8	◎アップリケ	28
●ぬう前の準備	9～16	◎シェルタック	28
◎押さえの交換	9	◎パッチワーク	29
◎布に適した糸と針の目安	10	◎スカラップ	29
◎針の交換	10	◎ファゴティング	30
◎下糸の準備	11～13	◎スモッキング	30
★ボビンの取り出し	11	◎スーパーもようぬい	31
★糸こまの取り付け	11	●ミシンのお手入れ	32～33
★ボビンに糸を巻く	12	◎かまと送り歯の掃除	32
★ボビンのセット	13	◎ランプの取りかえ方	33
◎上糸の準備	14～16	●ミシンの調子が悪いときの直し方 ..	34
★上糸をかける	14		
★糸通しの使い方	15		
★下糸の引き上げ	16		

お取り扱いについてのお願い

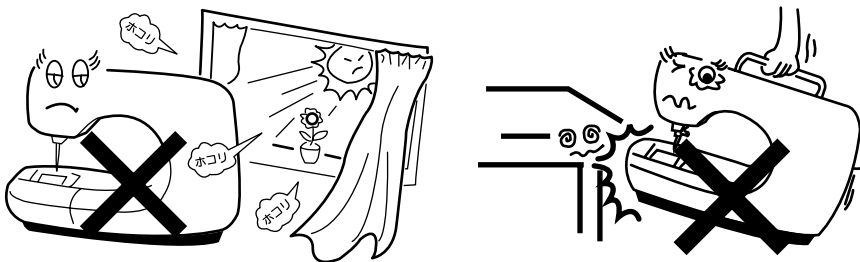
◇ご使用の前に

- ① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



◇いつまでもご愛用いただくために

- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところはさけてください。
- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

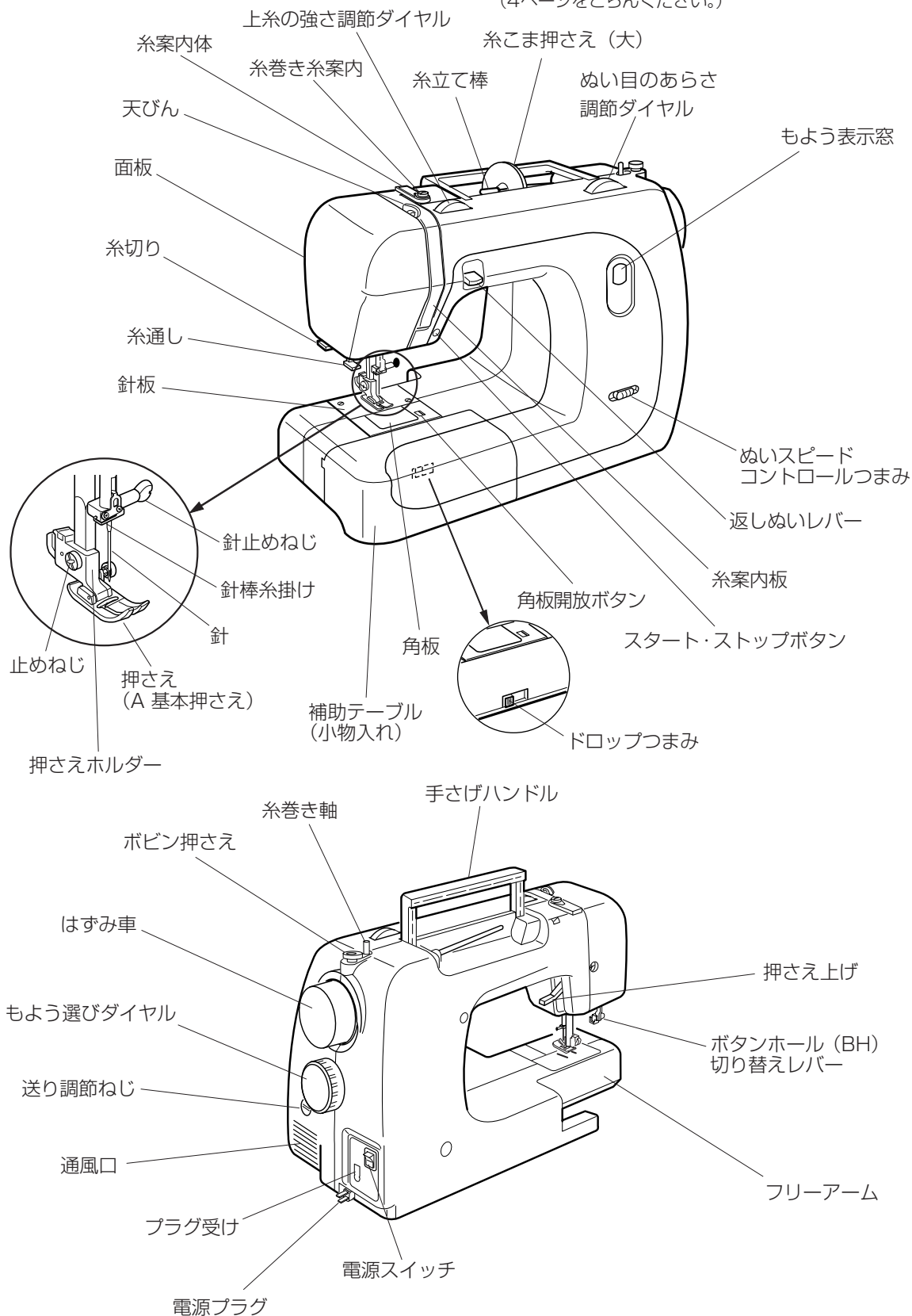


◇修理・調整についてのご案内

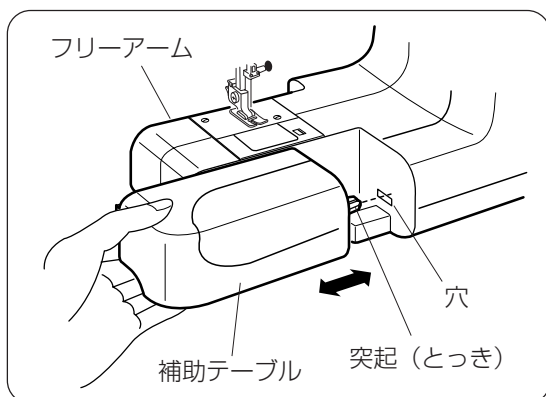
万一不調になったり、故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(34 ページ) により点検・調整を行ってください。

●各部のなまえ

※糸こま押さえ(大)は、標準付属品に入っています。
(4ページをごらんください。)



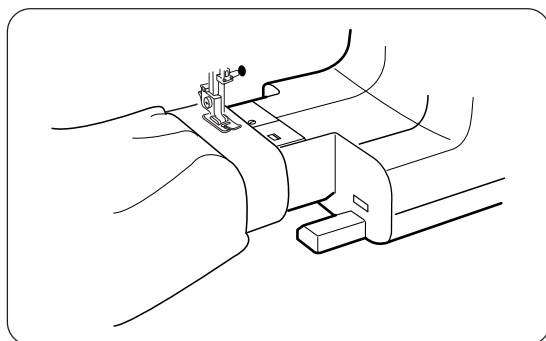
●補助テーブルの使い方



【補助テーブルの外し方・付け方】

補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

取り付けるときは、フリーアームにそわせ、突起（とっき）を穴に入れ、取り付けます。



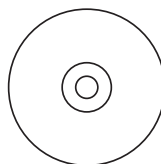
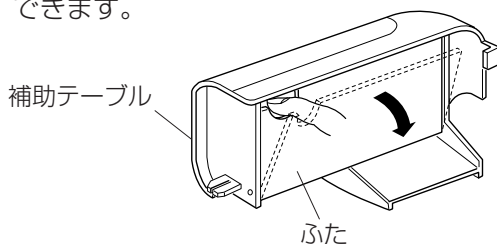
【フリーアームの使い方】

補助テーブルを外すと、フリーアームになります。

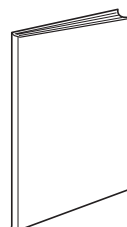
そで口やすそなどのぬい、およびふくろ物の口端の始末に利用します。

●標準付属品と収納場所

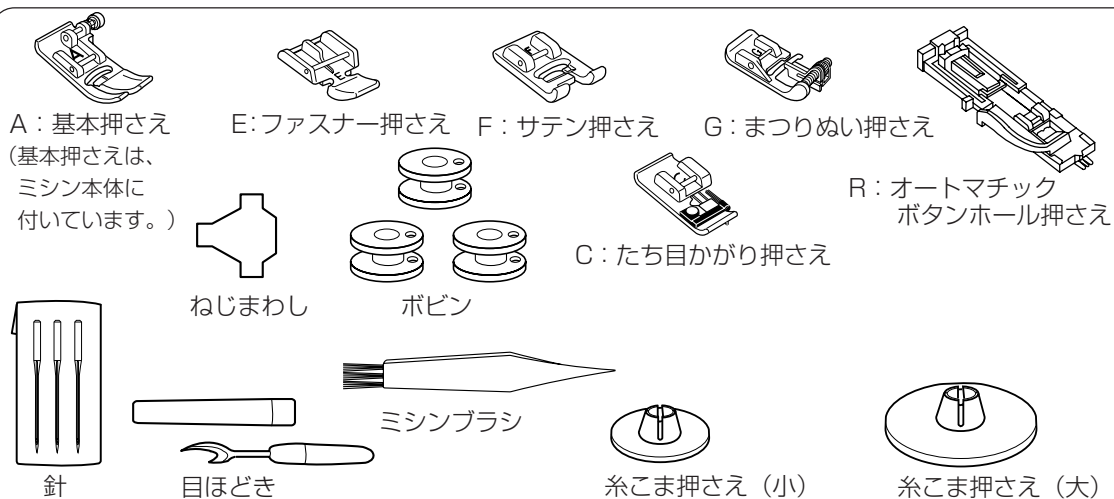
補助テーブルのふたを開くと、小物部品の収納ができます。



説明DVD

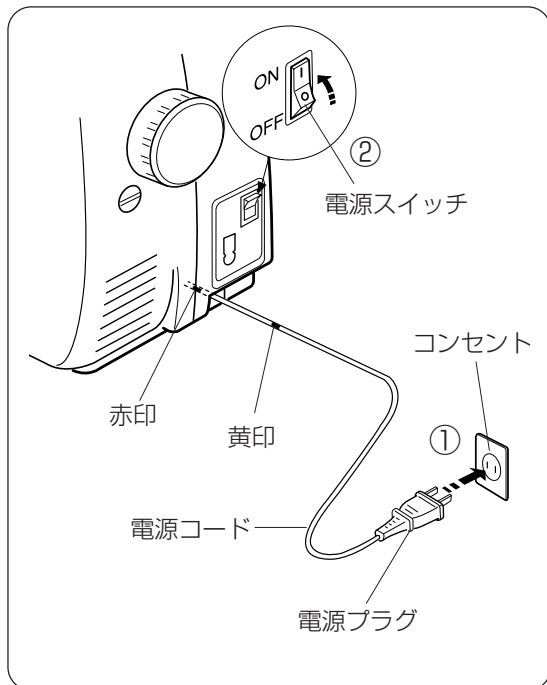


取扱説明書



●操作方法

◎電源のつなぎ方



★スタート・ストップボタンを使用する場合

① 電源スイッチを「OFF」(切) にして、電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。

② 電源スイッチを「ON」(入) にします。

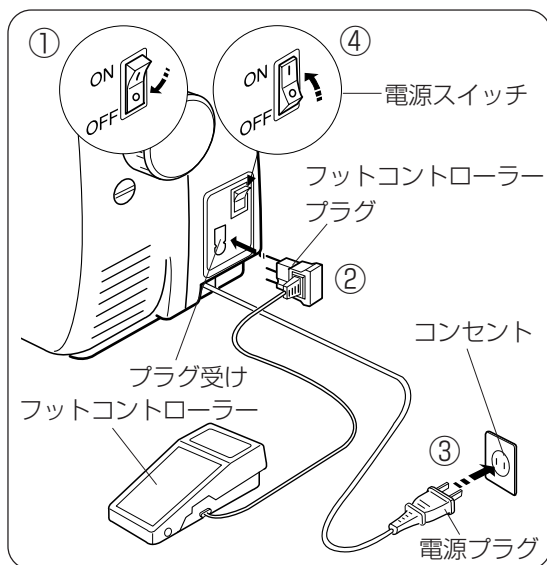
※ 電源コードは、赤印以上は引き出さないでください。断線の恐れがあります。赤印は、黄印が出てから約 30cm で赤印になります。

⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
- ミシンを使わないときは、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

感電・火災の原因になります。

- 電源プラグは定期的に抜いて乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり、**火災の原因になります。**



★フットコントローラーを使用する場合

(フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。)

① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。

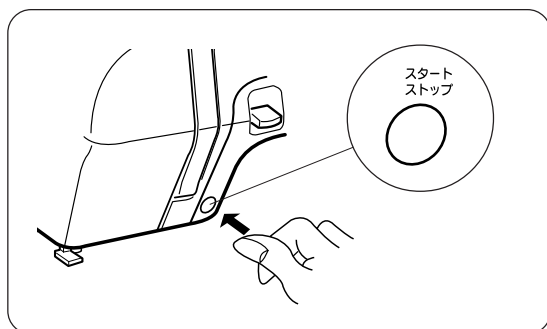
② フットコントローラープラグをプラグ受けに差し込みます。

③ 電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。

④ 電源スイッチを「ON」(入) にします。

※ フットコントローラー使用時は、スタート・ストップボタンは使用できません。

◎スタート・ストップボタン

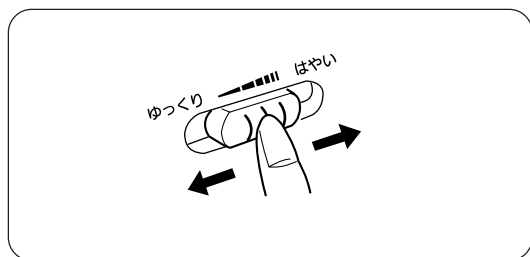


ボタンを押すと、ゆっくり動き始めてから、ぬいスピードコントロールつまみでセットした速さになります。

もう一度押すと、針が上の位置で止まります。

※ スタートおよびストップのとき、ボタンを押し続けているあいだ (手をはなすまで) は、低速で動きます。

◎速さの調節



★ぬいスピードコントロールつまみ

ぬう速さはぬいスピードコントロールつまみで自由に調節できます。

好みの速さにセットしてください。

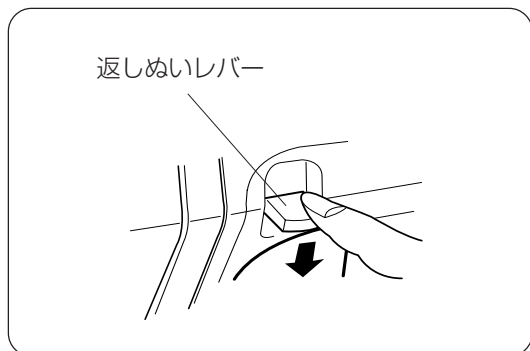
★フットコントローラー

フットコントローラーは、深く踏み込むほど速くなります。フットコントローラーを一杯に踏み込んだときの最高速度は、ぬいスピードコントロールつまみのセットした位置で決まります。

「ゆっくり」にセットしておけば、フットコントローラーを一杯に踏み込んでも、スピードが出ないので、細かいぬい物のときに便利です。

※通常ぬいスピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてお使いください。

◎返しぬいレバー



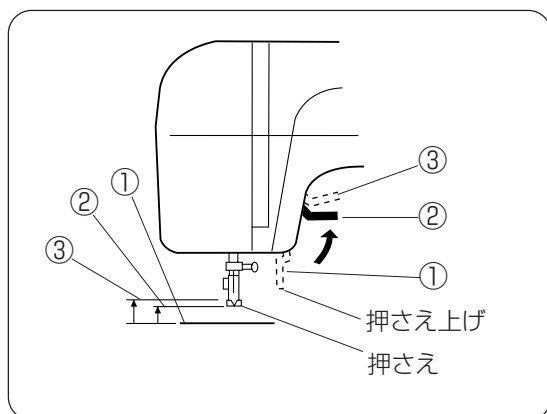
【運転中の返しぬい】

ぬっている途中で返しぬいレバーを押すと、押しているあいだは低速で返しぬいをし、手をはなすと前進ぬいになります。

【停止中の返しぬい】

停止中に返しぬいレバーを押すと、押しているあいだは低速で返しぬいをし、手をはなすと止まります。

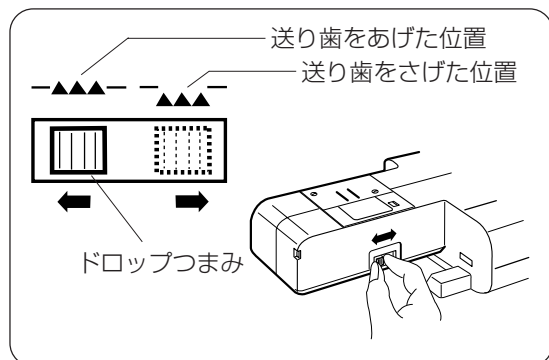
◎押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげ下げをします。押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押さえはさらにあがります。補助リフトとしてお使いください。

- ①さげた位置 …ぬうときには、さげておきます。
- ②普通にあげた位置…布の取り出しや、押さえの交換のときにあげます。
- ③さらにあげた位置…補助リフトで、厚い布等が入れやすくなります。

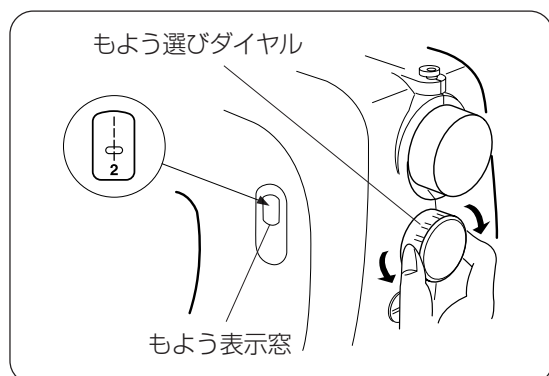
◎ドロップつまみ



ドロップつまみで、送り歯をさげることができます。
アタッチメント等を利用するときなどに使います。

※使用後は、送り歯をあげる位置にもどしておいてください。(送り歯はミシンが動くと自動的にあがります。)

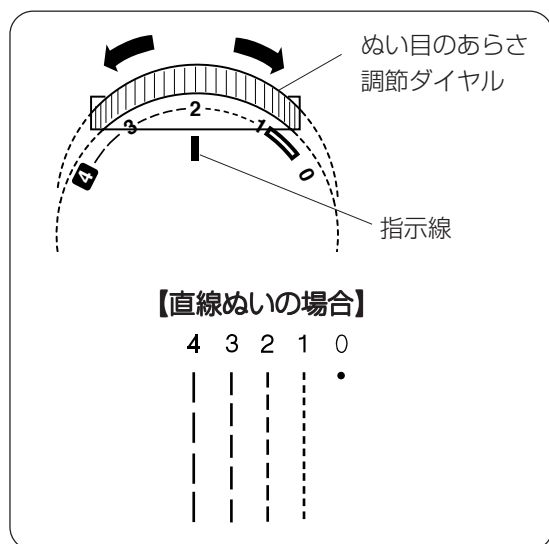
◎もよう選びダイヤル



もようを選ぶときは、針をあげた状態で、もよう選びダイヤルをまわして、もよう表示窓に表示させます。





※針が布にささったままでもよう選びダイヤルをまわすと、針が曲がったり、折れたりする原因になります。


◎ぬい目のあらか調節ダイヤル



ぬい目のあらかをかえるときは、ぬい目のあらか調節ダイヤルをまわして目盛りを指示線に合わせます。

数値を大きくすると、ぬい目のあらかがあらくなります。

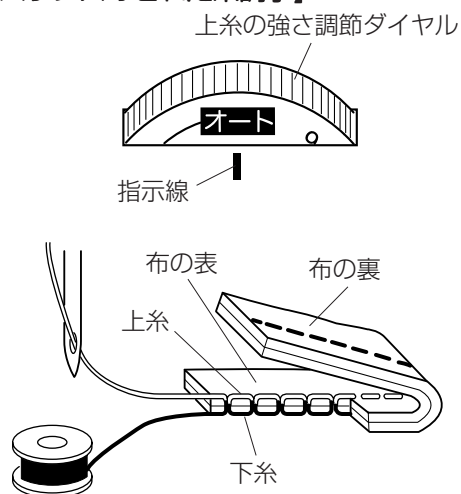
※もよう     のときは、目盛りを「4」にセットしてください。

ボタンホールのはきは、目盛り「  」の範囲に合わせてください。

その他のもようは、用途に合わせてセットしてください。

◎上糸の強さ調節ダイヤル

【バランスのとれた糸調子】



★自動糸調子

上糸の強さ調節ダイヤルの「オート」を指示線に合わせると、上糸と下糸がバランス良くぬえるように、自動セットされます。

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときや、特殊なぬい方のときは、上糸の強さ調節ダイヤルをまわして調節します。

【バランスのとれた糸調子】

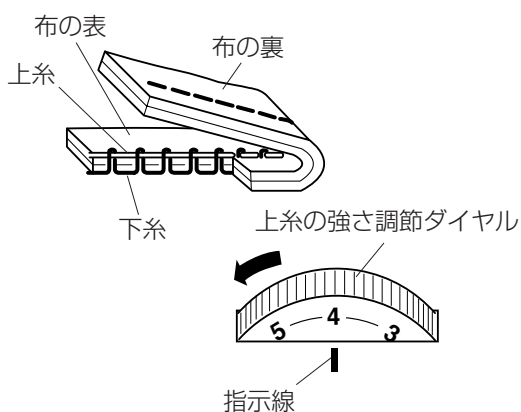
- 直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。
- ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

※糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

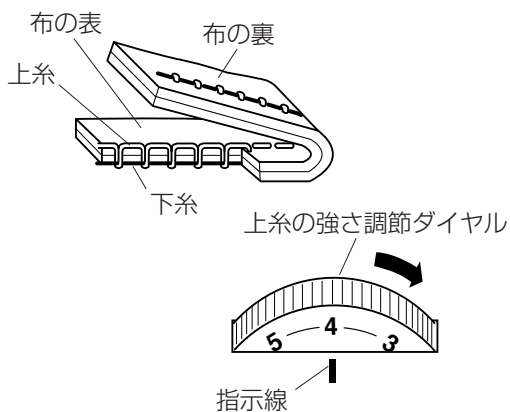
★マニュアル糸調子

糸調子のバランスがとれないときは、上糸の強さ調節ダイヤルをまわして調節します。

【上糸が強すぎるとき】



【上糸が弱すぎるとき】



【上糸が強すぎるとき】

下糸が布の表に出ます。

…上糸の強さ調節ダイヤルをまわして、小さな数字（1～4）を指示線に合わせます。

【上糸が弱すぎるとき】

上糸が布の裏に出ます。

…上糸の強さ調節ダイヤルをまわして、大きな数字（4～9）を指示線に合わせます。

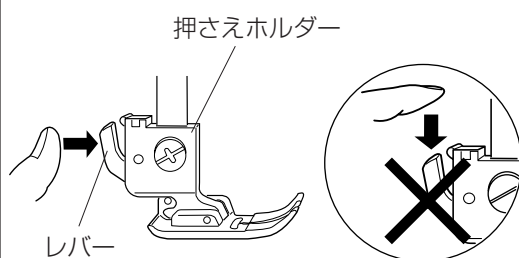
●ぬう前の準備

◎押さえの交換

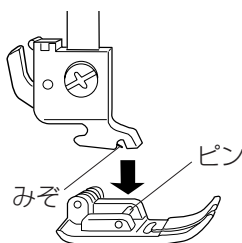
⚠注意

押さえ・押さえホルダーの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

【押さえの外し方】



【押さえの取り付け方】



【押さえの外し方】

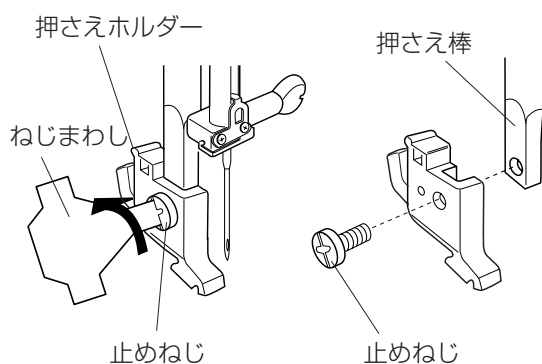
押さえ上げをあげ、押さえホルダーのレバーを図のようにうしろ側から手前に押して、押さえを外します。

※レバーを上から押すと、故障の原因になります。

【押さえの取り付け方】

押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

【押さえホルダーの着脱方法】



- 取り外す場合は、押さえ上げをあげ、ねじまわしで止めねじを左にまわして外します。
- 取り付ける場合は、ねじまわしで止めねじを右にまわし、押さえ棒にしっかりと取り付けます。

◎布に適した糸と針の目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90番	9番～11番
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール地	絹 糸 50番 綿 糸 60番 ポリエステル、ナイロン 50番～90番	11番～14番
		綿 糸 50番	14番
厚い布	デニム ツイード コート地	絹 糸 50番 綿 糸 40番～50番 ポリエステル 40番～50番	14番～16番
		ポリエステル 30番 綿 糸 30番	16番

※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。

この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャンメブルー針を使用すると防止効果があります。（市販SP針も同様の効果があります。）

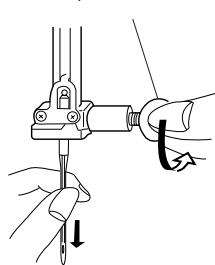
◎針の交換

△注意

針の交換は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてから行ってください。
けがの原因になります。

【外し方】

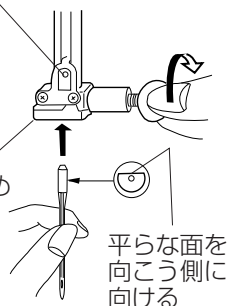
針止めねじ



【取り付け方】

ピン

針止め



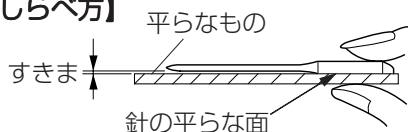
【針の外し方】

はずみ車をまわし針をあげ、押さえ上げをさげた状態で、針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。

【針の取り付け方】

針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

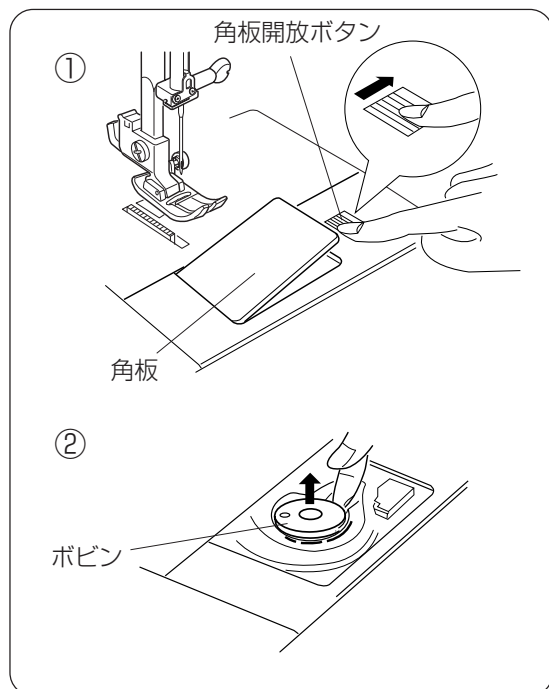
【針のしらべ方】



針の平らな面を平らなもの（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

◎下糸の準備

★ボビンの取り出し



①角板開放ボタンを右にずらして、角板を外します。

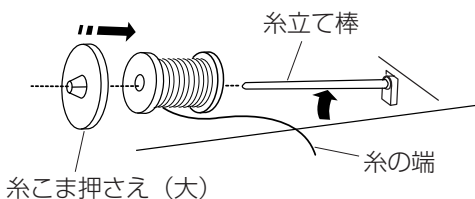
②ボビンを取り出します。

※ボビンは必ず専用プラスチックボビンをご使用ください。

※他の製品を使用すると故障の原因になります。

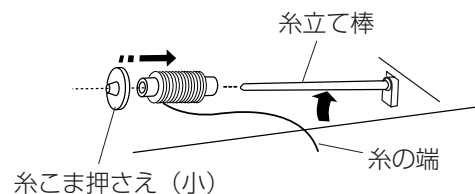
★糸こまの取り付け

【普通の糸こまのとき】



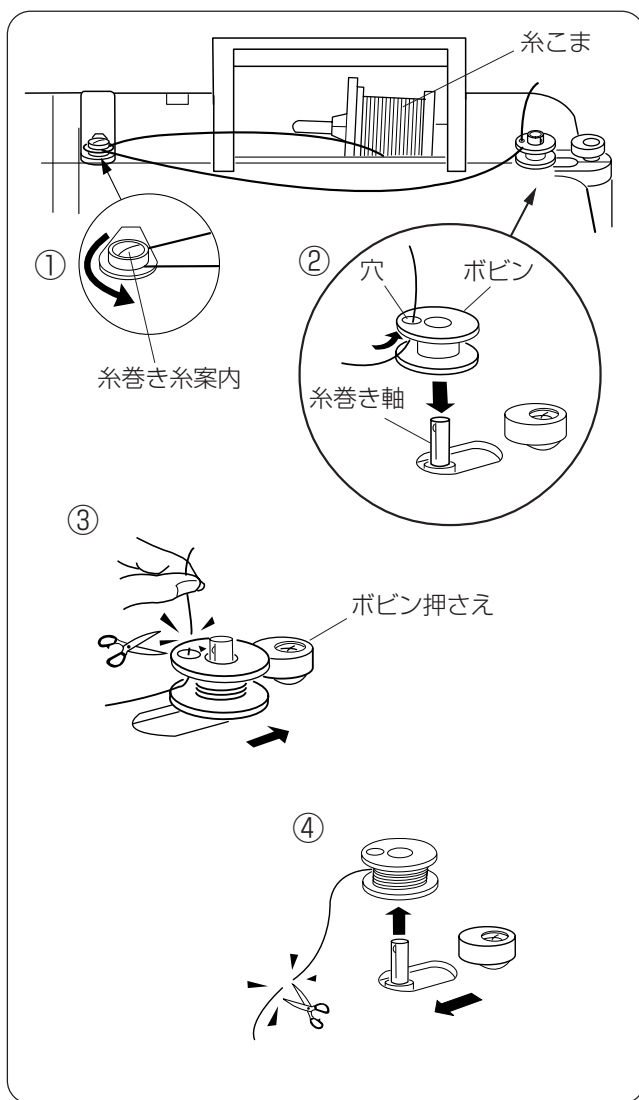
糸立て棒を軽くおこし、糸の端が糸こまの下から手前になるようにして糸こまを入れ、糸こま押さえ（大）で糸こまを押さえます。

【小さい糸こまのとき】



※小さい糸こまは、糸こま押さえ（小）を使用してください。

★ボビンに糸を巻く



※ぬいスピードコントロールつまみは「はい」の位置にしてください。

①糸こま側の糸を軽く押さえ、糸巻き糸案内に糸をかけます。

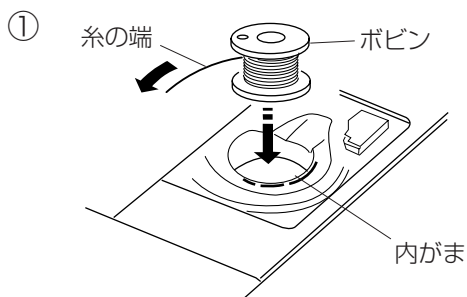
②ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

③ボビンをボビン押さえの方に押し付け、糸の端をつまんだままミシンをスタートさせて巻き始めます。
糸がボビンに3重くらい巻きついたらミシンを止めて、穴のきわでつまんでいる糸を切ります。

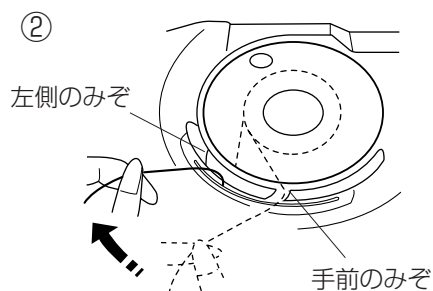
④再びスタートして巻き終わると、ボビンの回転が止まります。
ミシンを止めたあと、糸巻き軸をもどし、ボビンを糸巻き軸から外し、糸を切ります。

※糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから移動してください。

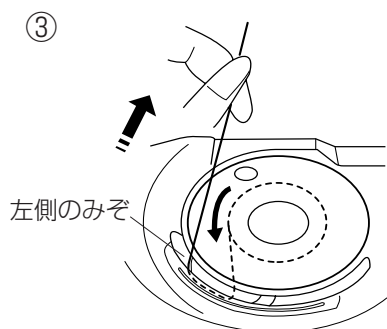
★ボビンのセット



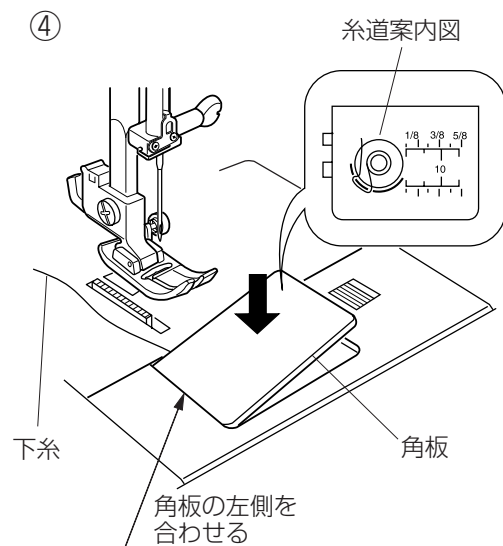
①糸の端を矢印方向に出して、ボビンを内がまに入れます。



②糸の端を引きながら、手前のみぞにかけ、そのまま左へまわして、左側のみぞのところにします。



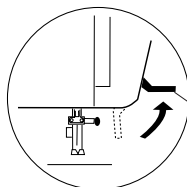
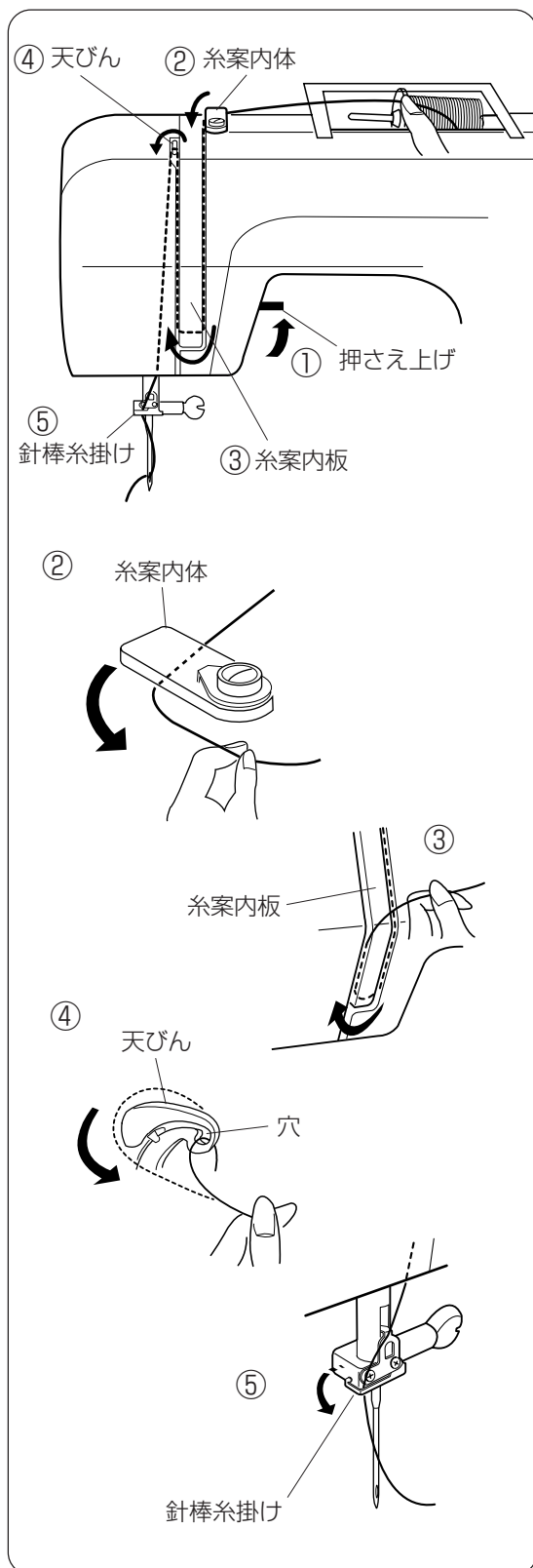
③糸を左側のみぞにかけて、向こう側に出します。
※糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合には、ボビンを上下逆に入れかえます。



④下糸を 10cm くらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

◎上糸の準備

★上糸をかける



押さえ上げ

①押さえ上げをあげ、はずみ車を手前にまわし、天びんをあげます。

②糸こまから糸を引き出し、糸こま側の糸を軽く押さえながら糸案内体の下に巻きつけるようにしてかけ、手前に引き出します。

③糸案内板の右側にそって下におろし、糸案内板の下をまわして左上に引きあげます。

④天びんの右からうしろへまわして左に出し、スリットから穴先まで引き入れて、まっすぐ下におろします。

⑤針棒糸掛けに左からかけます。

※針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、15ページをごらんください。

★糸通しの使い方

※針は、11番～16番および、ジャンメブルー針が使えます。

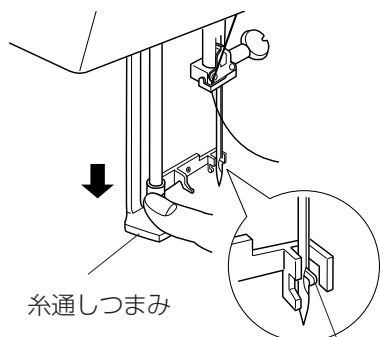
糸は、50番～90番が使えます。

(針または糸の太さによっては、使えない場合があります。)

△注意

糸通しを使用するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

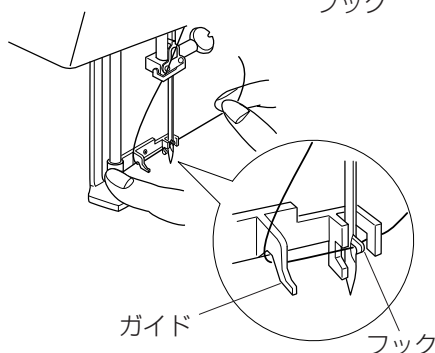
①



糸通しつまみ

フック

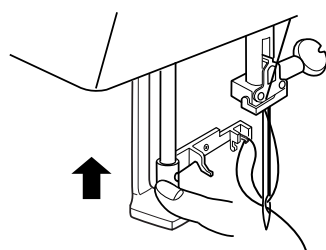
②



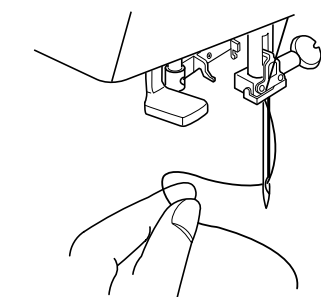
ガイド

フック

③



④



①押さえ上げをさげ、針をいちばん上に上げておきます。

糸通しつまみをいちばん下までさげ、フックを針穴に入れた状態で保持します。

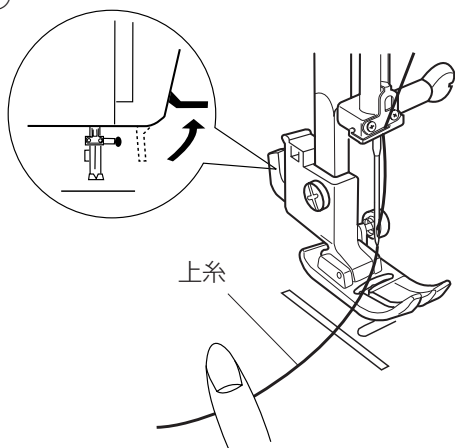
②糸を左側からガイドとフックにかけます。

③糸の端を軽く持ったまま、糸通しつまみを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

④糸の輪を糸通しから外し、針穴から端を引き出します。

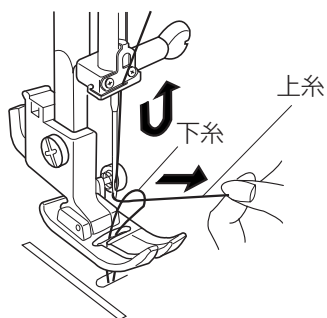
★下糸の引き上げ

①



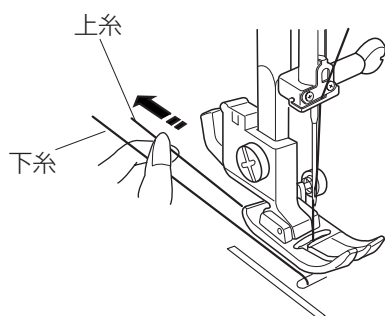
①押さえ上げをあげ、上糸の端を指で押さえておきます。

②



②はずみ車を手前に1回転させ、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③



③上糸・下糸を押さえの下にして、うしろへそろえて約10cmほど引き出しておきます。

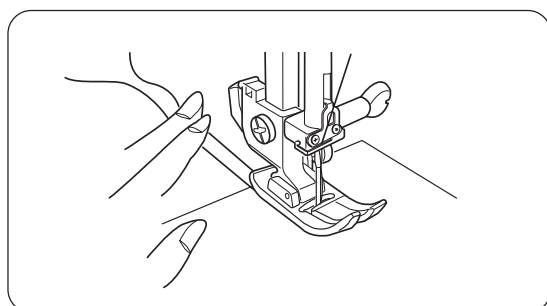
●いろいろな実用ぬい

◎直線ぬい

もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>1</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>2</p> </div> </div> <p>または</p>	<p>A 基本押さえ</p>	<p>オート</p>	<p>1.5~4</p>

※もよう「1」は、端ぬいなどに使用します。

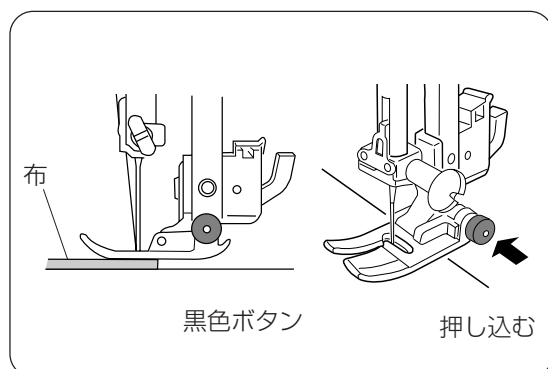
★ぬい始め



糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。
押さえ上げをさげて、ぬい始めます。

※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

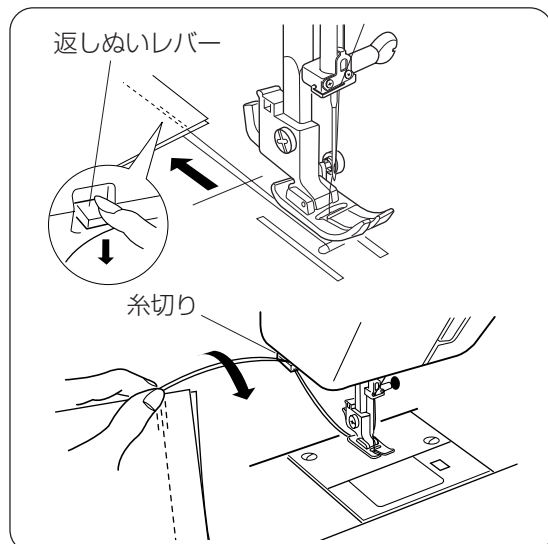
★厚手の布端のぬい始め



①ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒色ボタンを押し込みます。

②ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。
黒色ボタンから手をはなし、ぬい始めます。
押さえが完全に布の上にあると、黒色ボタンの押し込みは自動的に解除されます。

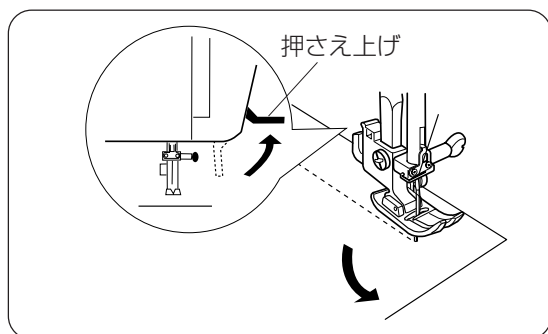
★ぬい終わり



ぬい終わりは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

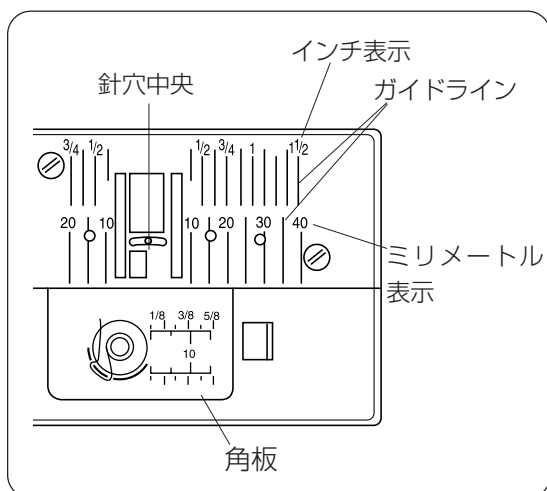
押さえ上げをあげて布を向こう側に静かに引き出し、布を手前に返すようにして糸切りで糸を切ります。

★ぬい方向の変更



ぬい方向をかえるときは、ミシンを止め、針を布にさしてから押さえ上げをあげます。
針を布にさしたまま、ぬい方向をかえます。
押さえ上げをさげて、再びぬい始めます。

★針板ガイドラインの利用



布端を角板および針板の左右にあるガイドラインに合わせてぬうと、布端から正確な位置にぬうことができます。

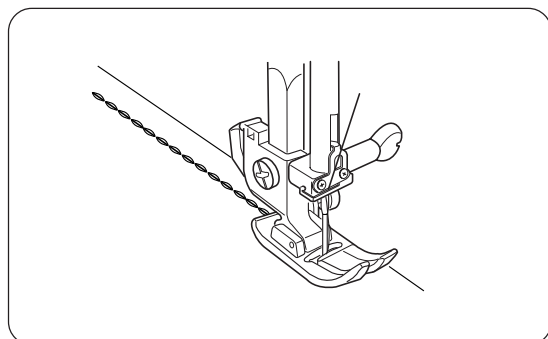
※ガイドラインの数字は、針穴中央からガイドラインまでの距離を「ミリメートル」または「インチ」で示しています。

数字	10	20	30	40	1/2	3/4	1	1 1/2
距離 (mm)	10	20	30	40	13	19	25	38

◎三重ぬい

もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
13 	 A 基本押さえ	 オート	 4


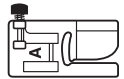


※ぬい目のあらかさ調節ダイヤルの目盛りは、「4」にセットしてください。



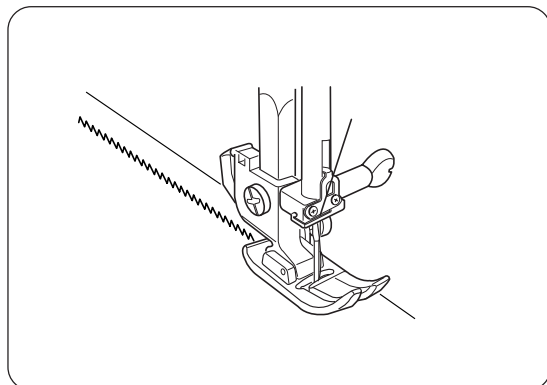
伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに便利です。

※布が前後するので、ぬい目が曲がらないように注意してぬってください。

◎伸縮ぬい

もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
12 	 A 基本押さえ	 オート	 4


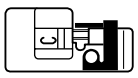


※ぬい目のあらかさ調節ダイヤルの目盛りは、「4」にセットしてください。

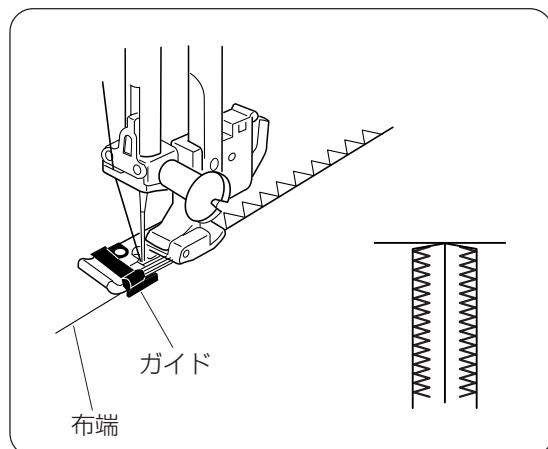


布が伸びても、糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目です。



また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。

◎ジグザグぬいのたち目かがり


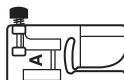


もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
5 	 C たち目かがり押さえ	 オート	 1～2

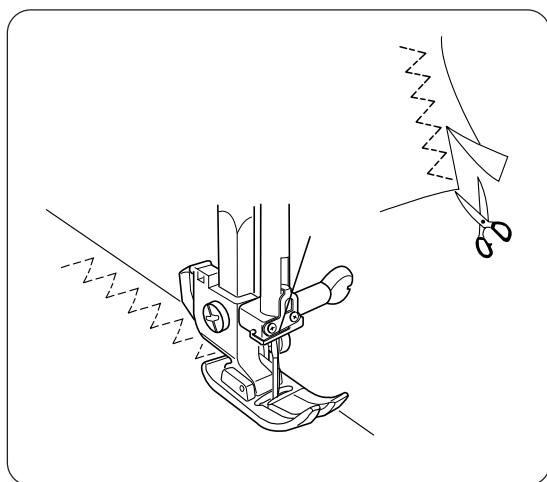


布端のほつれ止めとして広く利用します。
布端をたち目かがり押さえのガイドにあててぬい
ます。

※もよう   は使用しないでください。
針が押さえの針金にあたって折れることがあ
り、危険です。


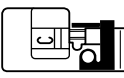

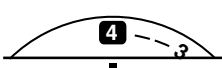
◎トリコットぬいのたち目かがり

もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらか調節ダイヤル
6 	 A 基本押さえ	 オート	 0.5～1.5

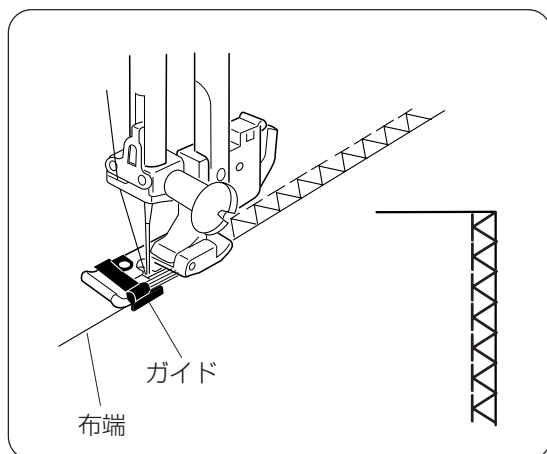


ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、
布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところ
をぬい目の近くで切り落とします。

◎その他のたち目かがり


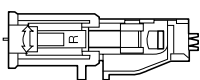


もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらか調節ダイヤル
9 	 C たち目かがり押さえ	 オート	 4

※ぬい目のあらか調節ダイヤルの目盛りは、「4」にセットしてください。



地ぬいをかねた、たち目かがりに利用します。
布端をたち目かがり押さえのガイドにあててぬい
ます。

◎オートボタンホール

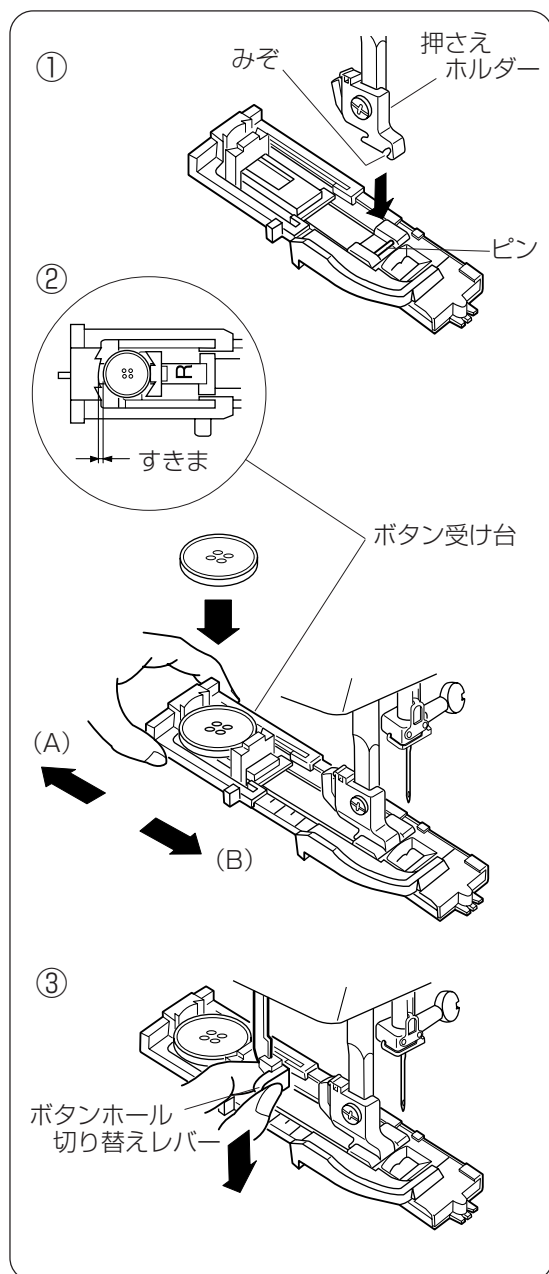
もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
	 R オートマチック ボタンホール押さえ	 オート	 0 (0.5 ~ 1)

※ボタンホールの長さは、使用するボタンをセットするだけで自動的に決まります。

※ボタンの直径が2.5cmの大きさまでできます。

※必ず試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。

※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地をはってください。



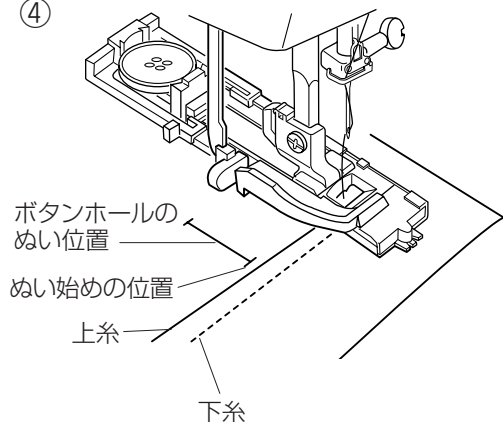
①針をあげた状態で、オートマチックボタンホール押さえを取り付けます。

②ボタン受け台を(A)方向に引き、ボタンをのせて、(B)の方向にもどしてはさみます。

※ボタン受け台とボタンのすきまをあけて位置決めすると、その分大きなボタンホールができます。

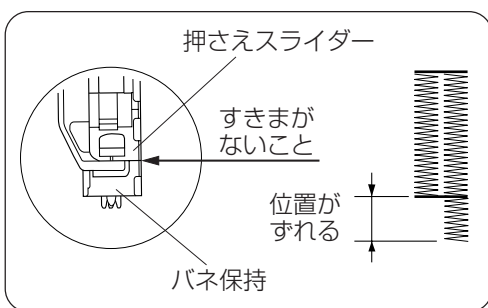
③ボタンホール切り替えレバーを止まるまでいっぱい引きさげます。

④

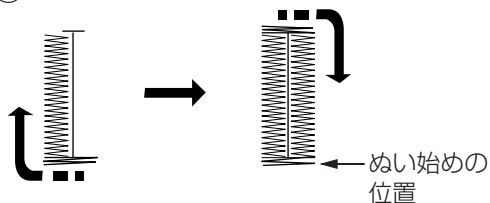


④ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に
通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、ぬい始めの位置に針をさして、押さ
え上げをさげます。

※ぬい始めに、押さえスライダーとバネ保持のあ
いだにすきまがないことを確認してください。
すきまがあると左右のぬい位置がずれること
があります。

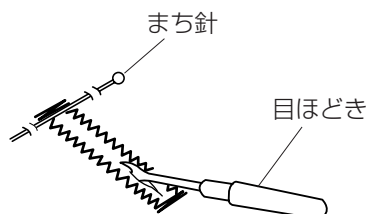


⑤



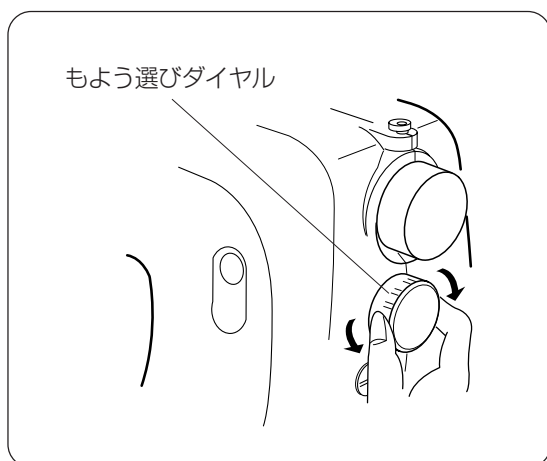
⑤ ミシンをスタートさせると、自動的にボタン
ホールをぬっていきます。
ボタンホールのぬい始めの位置までもどったら
スタート・ストップボタンを押して、ミシンを
止めます。

⑥ ⑦



⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸
を 10cm くらい残して切ります。
下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と
下糸を結びます。

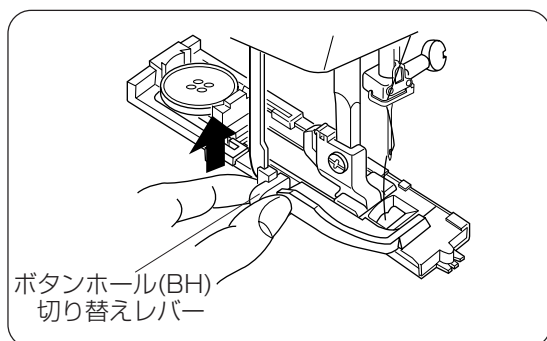
⑦ かんぬきの内側にまち針をさし渡して、目ほ
どきでかがった糸を切らないように切りひらきま
す。



【引き続きボタンホールぬいをする場合】

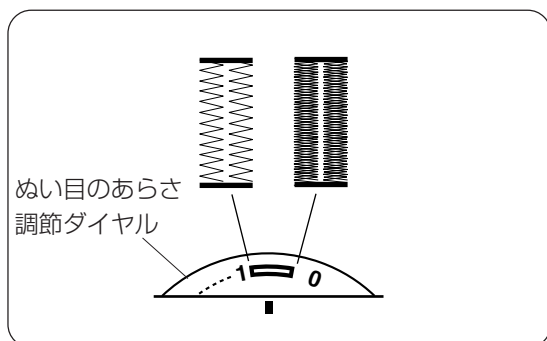
一度、もよう選びダイヤルをまわして他のもようを選び、再び **■** もようを選びます。

この操作により、引き続きボタンホールをぬうことができます。



【ボタンホールぬいが終わったとき】


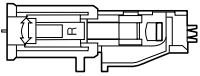


ボタンホールぬいが終わったら、ボタンホール (BH) 切り替えレバーを、止まるまでいっぱい押しあげて、もとの位置にもどします。



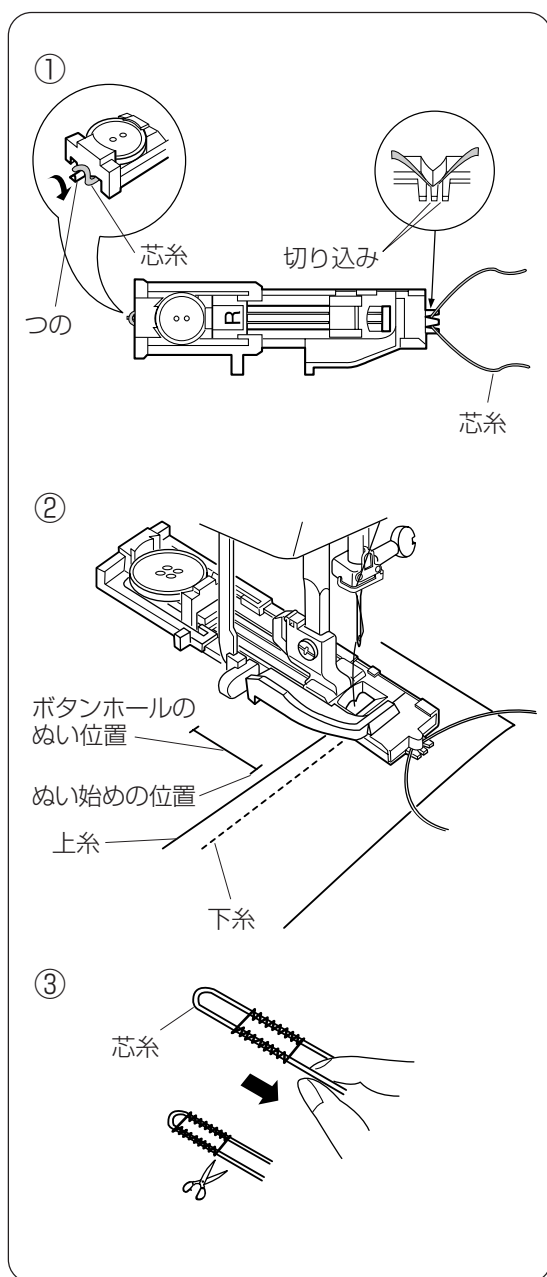
【ぬい目あらかさの調節】

ボタンホールのぬい目あらかさは、ぬい目のあらかさ調節ダイヤルの目盛り「**■**」の範囲で調節します。

◎芯入りオートボタンホール

もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
	 R オートマチック ボタンホール押さえ	 オート	 (0.5 ~ 1)

※芯糸を入れてぬうと、丈夫なボタンホールができます。
 (芯糸にはレース糸や太い糸などを使用します。)



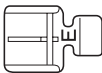

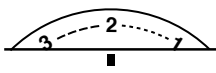
①押さえのうしろ側のつのにかけた芯糸を、押さえの下を通して、前側の切り込みにはさみます。

②ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげてぬいます。

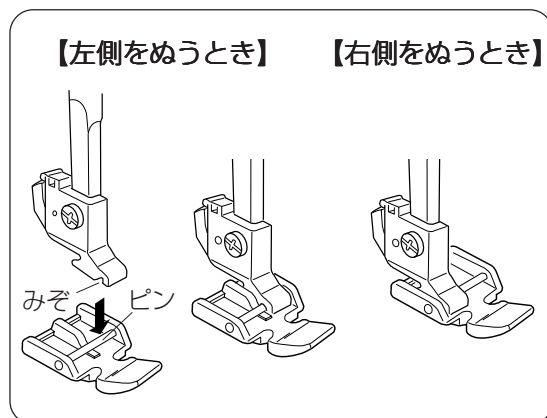
※ぬい方はオートボタンホールぬいの手順と同じです。

③芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

◎ファスナー付け

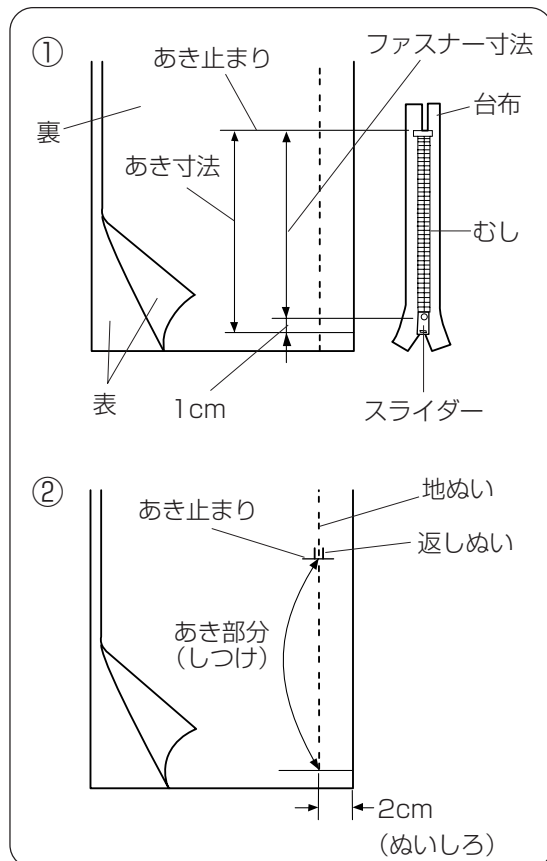
もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
2 --- 中	 E ファスナー押さえ	 オート	 1.5~4

★ファスナー押さえの取り付け方



ファスナーの左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。右側をぬうときは、左側にセットします。

★準備（例：左脇あきのぬい方）

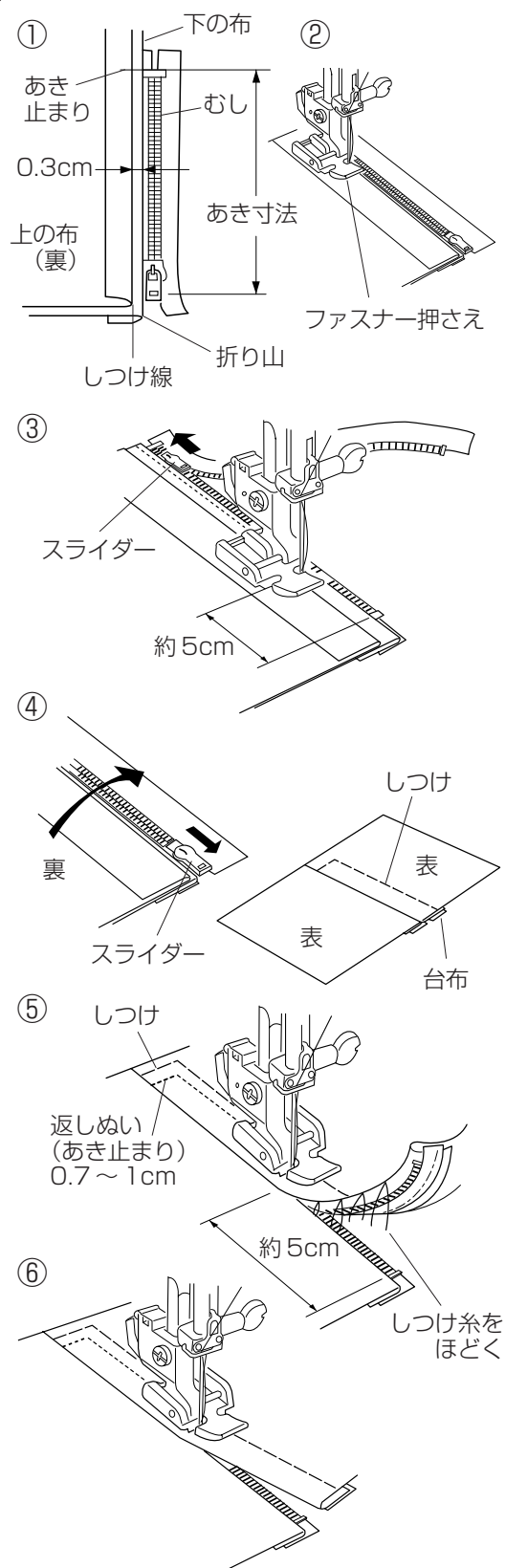


①ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。

②しつけと地ぬいをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分は、しつけをします。

※しつけはほどこきやすいように、ぬい目のあらかさ調節ダイヤルの目盛りを「4」(0.4cm)、上糸の強さ調節ダイヤルの目盛りを「1」くらいにしてぬいます。

★ぬい方



①ぬいしろを割り、下の布のぬいしろ0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

②押さえホルダーをファスナー押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。

※ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

③ファスナーの端から5cmほど手前でミシンを止め、針を布にさします。

押さえ上げをあげてスライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

※ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

④ファスナーをとじ、スライダーを上にしたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

⑤押さえホルダーをファスナー押さえの左側に付けかえ、上の布のあき止まりを(0.7~1cm)返しぬいします。


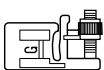

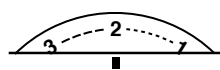
布の向きをかえ、むしのきわに押さえの端をあててぬいます。

ファスナーの上側を5cmほど残したところで止め、はずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままで押さえ上げをあげて、★準備②でしつけした糸をほどきます。

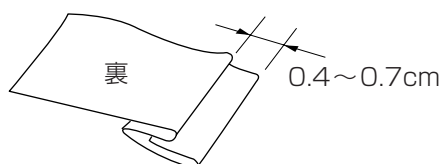
⑥スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

ぬい終わったら手順④でしつけした糸をほどきます。

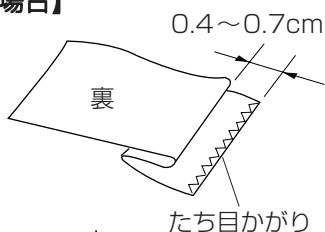
◎まつりぬい

もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
7 	 G まつりぬい押さえ	 オート	 1～3

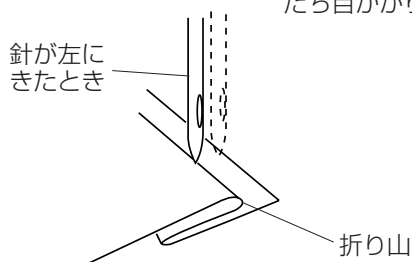
① 【うすい布・普通の布の場合】



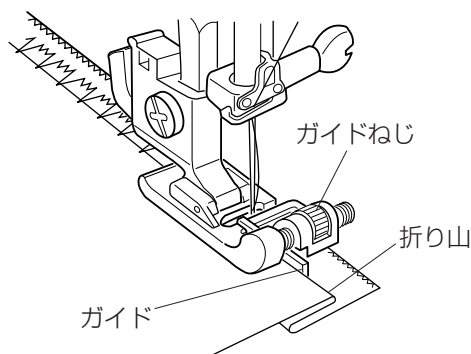
【厚い布の場合】



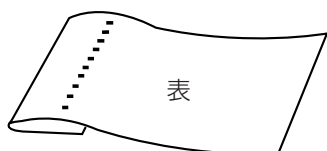
②



③



④



①布の裏を上にして、図のように、布端を0.4～0.7cmほど出して折り込みます。






②針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえ上げをさげます。

③ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山から外れないようにぬいます。

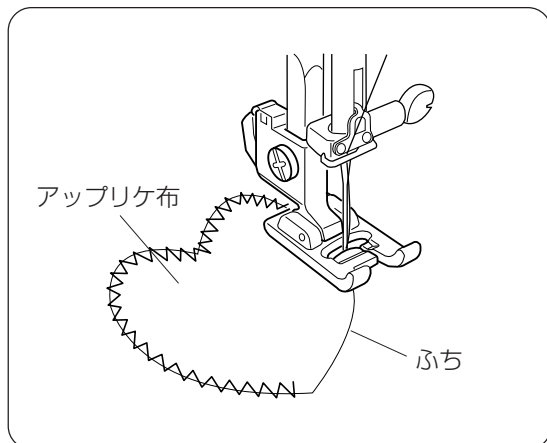
④ぬい終わったら布を表に返します。

※左側におりる針が折り山に必要以上にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりにませんので注意してください。

◎アップリケ

もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
4  または  5	 F サテン押さえ	 オート	 0.5～1




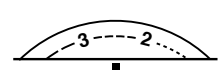
※アップリケ布は糊づけするか、しつけで止めておきます。
また、両面接着芯を使うと便利です。



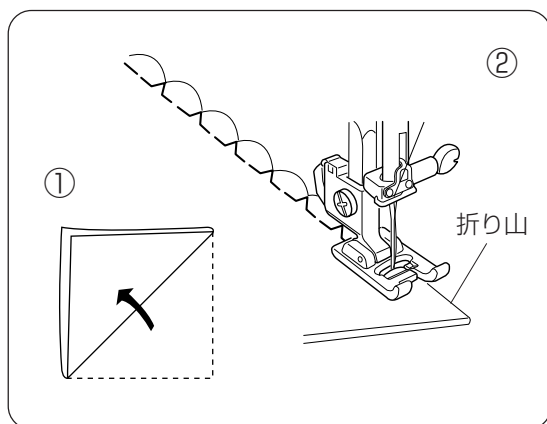
アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちをぬいます。

※カーブや、方向転換をするところではミシンを止め、はずみ車を手前にまわして、針を布にさします。押さえ上げをあげ、針を布にさしたままで方向をかえます。

◎シェルタック

もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
8 	 F サテン押さえ	 6～8	 2～3

※上糸の強さ調節ダイヤルは試しぬいをして、シェルタックの山がきれいに出るように調節します。



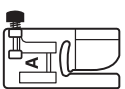





①布をバイアスに、2つ折りにします。

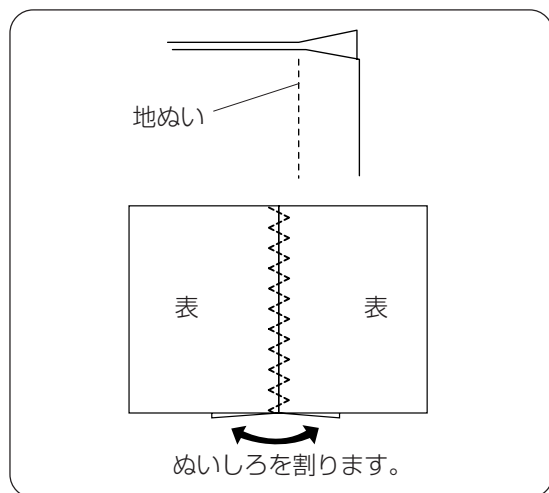
②針が右にきたとき、布の折り山の外側ぎりぎりをぬっていきます。


※ぬい終わったあと、布を開き、アイロンで山を片側にたおします。

◎パッチワーク





もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
6  または 10 	 A 基本押さえ	 オート	 0.5~1.5 (4)

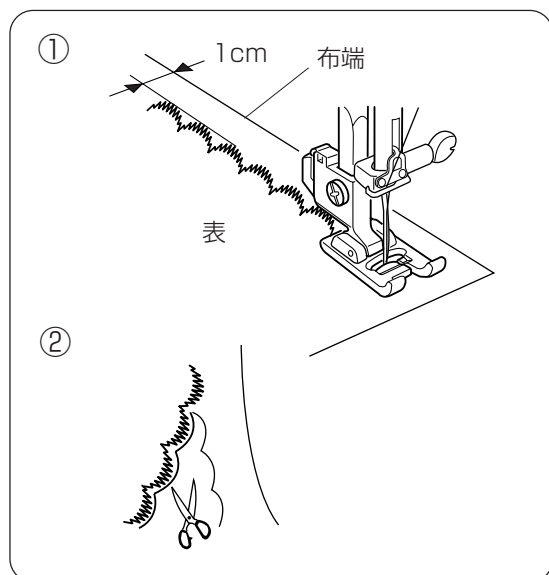
※もよう  は、ぬい目のあらかさ調節ダイヤルの目盛りを「4」にセットしてください。



布を中表に合わせ、直線ぬい () で地ぬいをして、ぬいしろを割ります。
 布の表から、布の合わせ線を中心にしてぬいます。

◎スカラップ

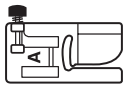
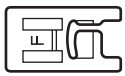


もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらかさ調節ダイヤル
11 	 F サテン押さえ	 オート	 0.5~1



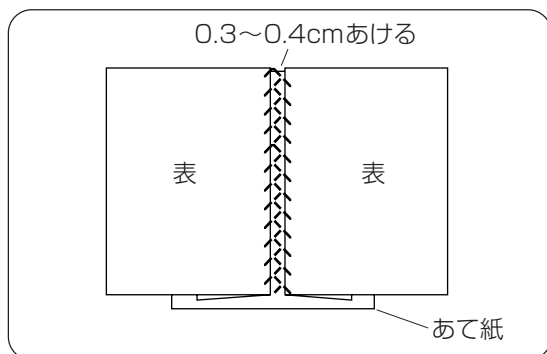
①布端を1cm くらい残してぬいます。

②糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

◎ファゴティング

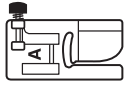


もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらし調節ダイヤル
10 ⋈ ⋈ ⋈	 A 基本押さえ	 または F サテン押さえ	 オート
			 4

※ぬい目のあらし調節ダイヤルの目盛りは、「4」にセットしてください。

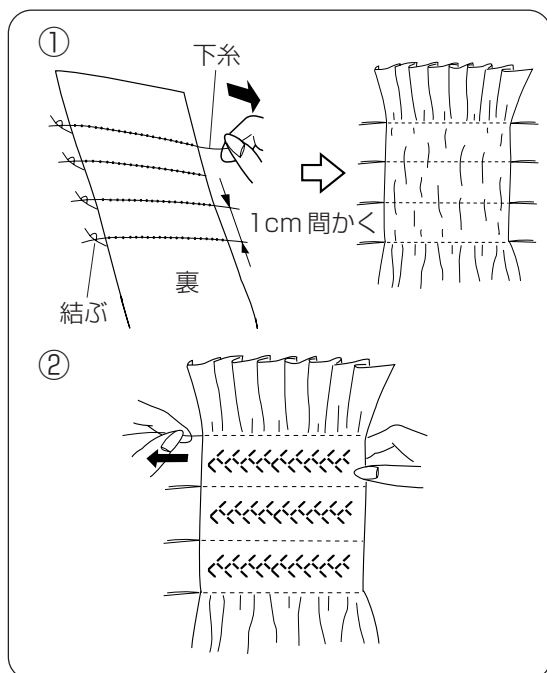


布端を図のように折り返し、布端と布端の間かくを0.3~0.4cmあけて下にあて紙をおきます。布の表から間かくの中央を中心にしてぬいます。最後にあて紙を取ります。

◎スモッキング

もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらし調節ダイヤル
10 ⋈ ⋈ ⋈	 A 基本押さえ	 オート	 4

※もよう ⋈ は、ぬい目のあらし調節ダイヤルの目盛りを「4」にセットしてください。



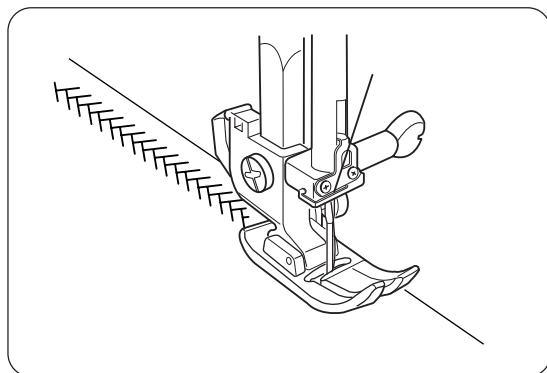
①上糸の強さ調節ダイヤルの目盛り「1」~「3」、ぬい目のあらし調節ダイヤルの目盛り「3」~「4」の直線ぬい（ $\frac{2}{1}$ ）を、1cm間かくで数本ぬい、上糸と下糸を布の片側で結びます。結んだ糸の反対側から下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

②直線ぬいと直線ぬいのあいだにもようぬいをします。
直線ぬいの糸を抜き取ります。

◎スーパーもようぬい

もよう	押さえ	上糸の強さ調節ダイヤル	ぬい目のあらか調節ダイヤル
9 10 12 13 	 A 基本押さえ	 オート	 4

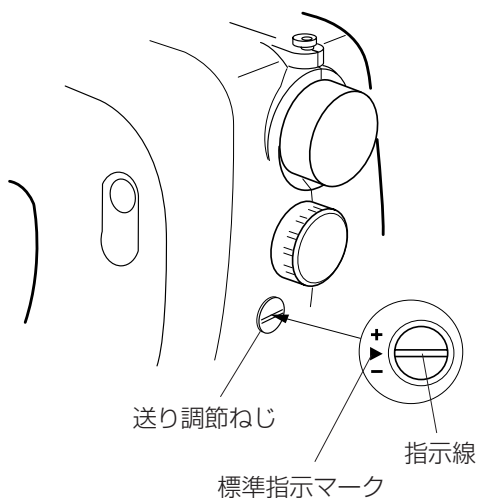
※スーパーもようは、ぬい目のあらか調節ダイヤルの目盛りを「4」にセットしてください。



布が前後するので、ぬい目が曲がらないように注意してぬいます。

もようの形が整わないときは、送り調節ねじで調節します。

【スーパーもようの形の整え方】

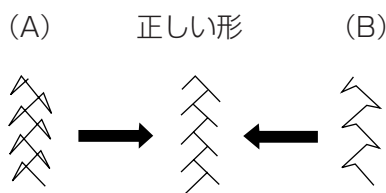


布の種類・枚数・ぬいの速さなどによっては、もようの形がくずれる場合があります。

実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで、つぎのように調節してください。

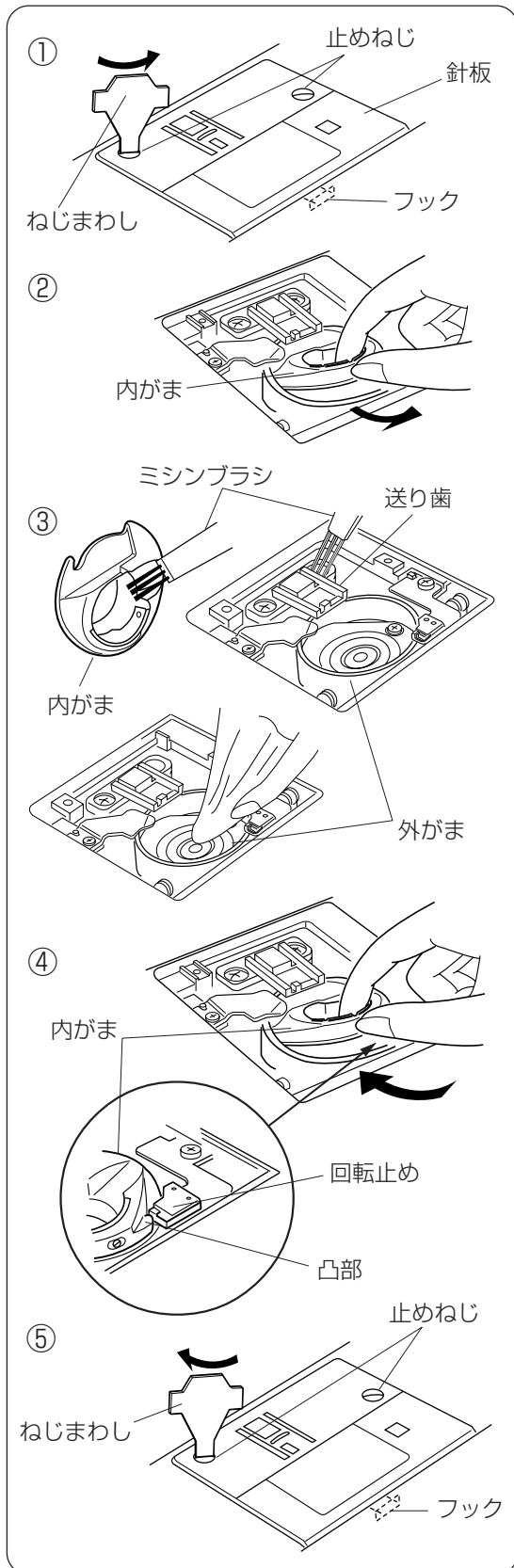
- 図(A) のようにもようがつまっているときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。
- 図(B) のようにもようが伸びているときは、送り調節ねじを「-」方向にまわします。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が、もようを正しくぬえる目安の位置です。



●ミシンのお手入れ

◎かまと送り歯の掃除



△注意

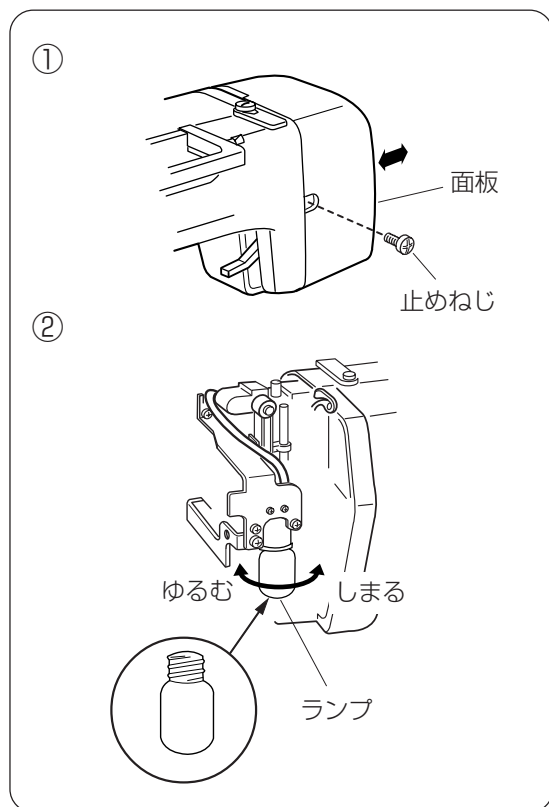
- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。

感電・火災・けがの原因になります。

- ①針と押さえを外します。
ねじまわしで2カ所の止めねじを外し、フックを外して、針板を取り外します。
- ②ボビンを取り出し、内がまの手前を上にながら外します。
- ③内がまは、ミシンブラシで掃除し、布切れで軽くふきます。
送り歯のごみは、ミシンブラシで手前に落とします。
外がまのまわりと中のごみを取り除き、中央部を布切れで軽くふきます。
- ※ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸い取ってください。
- ④掃除が終わったら、内がまの凸部を回転止めの左側に合わせて、内がまを差し込みます。

- ⑤ボビンを入れます。
フックを合わせて針板を取り付け、ねじまわしで止めねじをしめます。
- ※お手入れが終わったら、針と押さえを取り付けておいてください。

◎ランプの取りかえ方



⚠注意

ランプを交換するときは、

- 必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- また、ランプが冷えてから行ってください。

感電・やけどの原因になります。

①面板のうしろ側にある止めねじを、左にまわして外します。

面板を取り外します。

②ランプを左にまわして外します。

※ランプ・面板の取り付けは、①～②の逆の手順で行ってください。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. めい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. めい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針に対して糸が太すぎる。 	<p>14 ページ参照</p> <p>8 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 17 ページ参照 17 ページ参照 10 ページ参照</p>
下糸が切れる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 	<p>13 ページ参照 32 ページ参照 ボビンを交換する</p>
針が折れる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめ付けが、ゆるんでいる。 3. めい終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 	<p>10 ページ参照 10 ページ参照 17 ページ参照 10 ページ参照</p>
めい目がとぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャンメブルー針（市販SP針）を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。 	<p>10 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照</p> <p>14 ページ参照 針を交換する</p>
めい目がしわになる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布に対して針が太すぎる。 4. 布に対してめい目があらずすぎる。 	<p>8 ページ参照 13・14 ページ参照</p> <p>10 ページ参照 めい目を細かくする</p>
布送りがうまくいかない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送り歯に糸くすがたまっている。 2. めい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。 	<p>32 ページ参照 めい目をあらくする 7 ページ参照</p>
めい目に輪ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が細すぎる。 	<p>8 ページ参照 10 ページ参照</p>
ミシンがまわらない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻き軸が、下糸を巻いたあと、もとにもどっていない。（糸巻き状態になっている） 	<p>5 ページ参照 32 ページ参照 12 ページ参照</p>
ボタンホールがうまくいかない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 布に対して、めい目のあさが合っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びにくい芯地を使っていない。 	<p>23 ページ参照 21 ページ参照</p>
音が高い。	<ol style="list-style-type: none"> 1. かまの部分に、糸くすが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。 	<p>32 ページ参照 32 ページ参照</p>

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より 1 年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後も、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスを行います。
ただし、次のような場合は修理できないことがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

住 所 〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
電 話 お客様相談室 0120 - 026 - 557（フリーダイヤル）
042 - 661 - 2600

受 付 平日 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ <http://www.janome.co.jp>
メールでのお問い合わせ customer@gm.janome.co.jp

仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	55W（ランプ100V 12W）
外形寸法	幅40.8cmX奥行16.6cmX高さ26.7cm
重 量	7.2kg（本体）
使用針	家庭用 HA X 1
最高縫い速度	毎分 700 回転 フットコントローラー使用時 毎分 700 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますので
ご了承ください。

